学校番号	２０６

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「詳説　世界史」　（山川出版）						
副教材等	世界史詳覧（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・主体性をもち、国際社会における多様な価値観や文化を認め、平和で民主的な国家および社会の形成者に必要な資質能力の育成をめざします。
・講義形式だけでなく、自ら考え、発言できるような授業形態をとります。
・単語の暗記ではなく、歴史的事実に関する原因・結果の因果関係を理解し、また、その歴史事実が現在の自分にどうかかわるのかを考えます。
・資料の読み取りなども積極的に行います。
・中学校で習ったことが基礎知識としてあることを前提に進めます。教科書は事前に目を通しておいてください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・１年次の「歴史総合」で培った諸事象についての考察力を活用し、近現代史の学習の完成を図ります。
【思考力、判断力、表現力等】
・日本史の理解に必要な基礎事項の習得・定着を図り、世界史とも関連付けながら、歴史的諸事情に対する考察を深めるための情報を調べ、まとめる技能を身につけることをめざします。
・世界史の各時代の意義・特色や時代の変化にかかわる特徴を、諸資料を読み解いて多面的・多角的に考察する力を身につけ、それを論理的に説明・議論する力を育成することをめざします。
【学びに向かう力、人間性等】
・各時代における諸問題について、諸資料に基づいて主体的に課題を設定し、多様な意見を考慮しつつ、課題解決のために持続的に考察できる力の育成を図ることをめざします。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	帝国主義	・帝国主義と列強 ・世界分割 ・アジア諸国の改革と民族運動	a:　19世紀末から20世紀初頭に見られた社会の急激な変化とそれに対抗する各地の民族運動について意欲的に考察し、地理と歴史への関心を高めようとしている。 19世紀末から20世紀初頭に見られた社会の急激な変化とそれに対抗する各地の民族運動について、多面的多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 b: 19世紀末から20世紀初頭に見られた社会の急激な変化とそれに対抗する各地の民族運動について、有用な資料を収集し、選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 c: 19世紀末から20世紀初頭に見られた社会の急激な変化とそれに対抗する各地の民族運動について、日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	定期テスト	・定期テスト ・レポート課題 ・討論や発表 ・学習の振り返り	・レポート課題 ・討論や発表 ・学習の振り返り
	二つの世界大戦	・第一次大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下 ・アジア・アフリカ地域の民族運動 ・世界恐慌とファシズム諸国 ・第二次世界大戦		定期テスト	・定期テスト ・レポート課題 ・討論や発表	・レポート課題 ・討論や発表 ・学習の振り返り

		・	a: 二つの世界大戦へ至る原因と影響、平和の意義などに対する関心を高め、意欲的に追求しようとしている。 二つの世界大戦へ至る原因と影響、平和の意義などを多面的多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 b: 二つの世界大戦へ至る原因と影響、平和の意義などに対し、有用な資料を収集し、選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 c: 20世紀という時代の基本的な事柄や、二つの世界大戦へ至る原因と影響、平和の意義などを、日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。		・学習の振り返り	
2	冷戦と第三世界の台頭	1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺	a: 冷戦がどのように進展したのかを、各国の社会に与えた影響や核開発の動きなどとあわせて理解している。 ・冷戦のもとで第三世界の台頭がどのように進んだのか、キューバ危機を経て国際社会が核兵器の制限にどのように取り組んだのかを理解している。 ・ベトナム戦争をはじめとする1960 年代以降の冷戦体制の動揺やその推移を、米ソの代理戦争としての視点や各国における変化をふまえて理解している。 b: 先進国の平均経済成長率を示した統計資料や「スターリン批判」などの資料をもとに、冷戦下における東西両陣営の社会の変容を多面的・多角的に考察し表現している。 ・当時の世界情勢をふまえたうえで「カストロによる第２次ハバナ宣言」などの資料をもとに、キューバ革命が国際社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 ・1960 年代の各地の様子を写した図像資料や「チェコスロヴァキア共産党行動綱領」などの資料を	定期考査	定期考査 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題	振り返りシート ワークシート

			もとに、冷戦の動揺が各地にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c：冷戦の展開について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・第三世界の台頭とキューバ危機について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 冷戦体制の動揺について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			
3	冷戦の終結と今日の世界	1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相	a：1960～1980年代の各国の経済や社会の状況を、経済構造の変化をふまえて理解している。 ・冷戦がどのような過程をたどって終結したのかを理解している。 ・冷戦終結後の各地の状況や地域・民族紛争、経済における世界の一体化について、国際情勢をふまえたうえで理解している。 ・現代思想・文化の特徴をそれまでの文化・思想と比較したうえで理解している。 b：原油価格の推移や経済成長率の推移などの統計資料をもとに、オイル＝ショックが世界の社会と経済に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 ・1990 年前後の各地の様子を写した図像資料などをもとに、さまざまな出来事と東西対立緩和の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 ・各地の状況を写した図像資料などをもとに、今日の世界が抱えている課題の特徴や傾向を多面	定期考査	定期考査 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題	振り返りシート ワークシート

			的・多角的に考察し表現している。 ・芸術作品を示した図像資料やジェンダー＝ギャップ指数を示した統計資料などをもとに、人々の世界観や生活のありようの変化を多面的･多角的に考察し表現している。 ｃ：オイル＝ショックとその影響について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・冷戦の終結について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・今日の世界が抱えている課題について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度